

知床半島におけるクサシギ *Tringa ochropus* の記録

深津恵太

086-1652 北海道標津郡標津町南2条西2丁目1番9号, 根釧東部森林管理署

A Record of Green Sandpiper *Tringa ochropus* in Shiretoko Peninsula, Hokkaido

FUKATSU Keita

Konsentoubu District Forest Office, 1-9 S2W2, Shibetsu, Hokkaido 086-1655, Japan. kei-f25@r7.dion.ne.jp

はじめに

クサシギ *Tringa ochropus* はユーラシア大陸の中・高緯度地方に繁殖分布し、冬は地中海地方、アフリカ大陸中部、インド、中国南部、東南アジアなどに渡って過ごす(中村・中村 1995; 日本鳥学会 2000)。日本では渡りの中継地点として各地に現れ、関東以南では少数が越冬する。北海道においてはコムケ湖、霧多布湿原(藤岡ら 1998, 1999)、涛沸湖と藻琴湖周辺(川崎 1997)などで記録がある。また、サハリンでは稀に繁殖が確認

される旅鳥(ネチャエフ 1991)である。筆者は2006年9月に知床半島中央部の二の沼においてクサシギ1羽を観察した。湿地の少ない知床半島の内陸地においてシギ・チドリ類の観察記録は少ない。またクサシギは今回が知床半島での初記録であったため、ここに報告する。

観察記録

クサシギを観察したのは2006年9月17日の午前中で、天候は晴れで微風。場所は知床峠より南へ約2.5 kmの二の沼(44°1'N, 145°6'E, 標高約695 m)である(図1)。この沼は羅臼湖への登山道沿いにある浅い池塘で、周辺の高層湿原にはミズゴケ属 *Sphagnum* spp., タカネハリスゲ *Carex pauciflora*, ラウススゲ *Carex stylosa*, ワタスゲ *Eriophorum vaginatum*, ミツバオウレン *Coptis trifolia*, モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* などが生育する。低木層にはチシマザサ *Sasa kurilensis*, ハイマツ *Pinus pumila* の群落, また高木層にはトドマツ *Abies sachalinensis*, ダケカンバ *Betula ermanii* などが分布している(図2)。

観察場所は二の沼の南の木道からで、クサシギまで約25 mの距離があった。

観察したクサシギは額から後頸は灰褐色で、上面は暗灰褐色。嘴は黒くアイリングは白かった。翼下面は黒く、腹から下尾筒は白いため飛行時に白と黒のコントラストが鮮やかに見えた。類似種のタカブシギ *Tringa glareola* とは翼下面の色彩が異なることから識別できた。

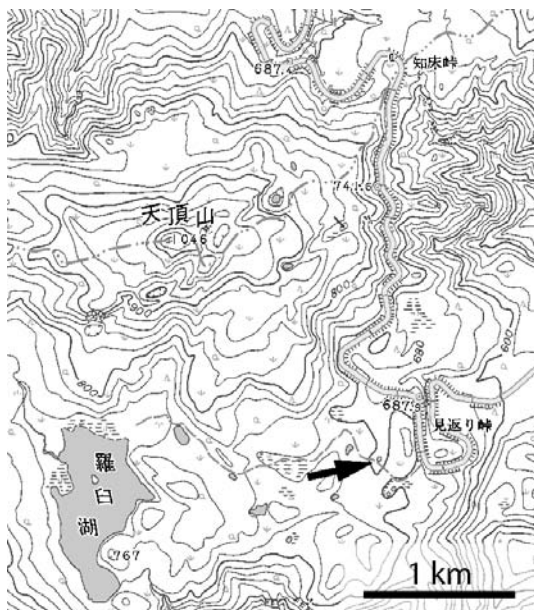


図1. クサシギを観察した二の沼位置図(矢印で示す)。地図は国土地理院発行の数値地図50000(地図画像)を使用した。

図 2. 二の沼と周辺の環境 (2006 年 10 月 16 日) .



クサシギは水辺にて採餌をしていたが、10:42 に二の沼より飛び立ちながら chichipichi chupichupi と鋭い響く声で鳴き、20 m 離れた沼の西側の斜面へ飛翔し、ハイマツ林の背後に消失した。

考察

筆者は根釧東部森林管理署森林保護員として、羅臼湖周辺の巡視を 2006 年 6 月 25 日-10 月 27 日までの間 36 回行った。その間、クサシギを観察できたのはこの 9 月 17 日 1 日のみであった。この前後の 9 月 10 日、9 月 21 日の巡視時には観察できなかったことから、クサシギは二の沼周辺において短期間の滞在であったと推測された。

他に同地区で観察されたシギ・チドリ類としては、8 月 27 日に羅臼湖北側の湿地で採餌中のトウネン *Calidris ruficollis* を 7 羽観察した。また、9 月 17 日には同じ羅臼湖登山道沿いの一の沼でオオジシギ *Gallinago hardwickii* を観察した。

知床半島の内陸部に生息する鳥類については中川 (1988) などが報告しているが、シギ・チドリ類は少ない。一方、遠音別岳の稜線部でチュウシャクシギ *Numenius phaeopus* が 9 月に記録されている (中川・藤巻 1985)。亜高山帯や高山帯におけるシギ・チドリ類の生息には不明の部分が多く残されており、今後の調査によって明らかにしていきたい。

最後に本報告を作成するにあたり、知床博物館の中川元館長に文献の紹介と貴重な助言をいただ

いた。心から感謝の意を表したい。

引用文献

- 川崎康弘. 1997. 網走市・小清水町・斜里町におけるオホーツク海沿岸部周辺の鳥類. 知床博物館研究報告 18: 19-34.
- 中川元. 1988. 鳥類. 大泰司紀之・中川元 (編), 知床の動物. pp. 59-121. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 中川元・藤巻裕蔵. 1985. 遠音別岳原生自然環境保全地域における鳥類. 環境庁 (編), 遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書. pp. 379-404. 環境庁, 東京.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉. 304 pp. 保育社, 大阪.
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録改訂第 6 版. 345 pp. 日本鳥学会, 帯広.
- 藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之. 1998. シギ・チドリ全国カウント報告書 1997 年秋. 265 pp. 日本湿地ネットワーク, シギ・チドリ委員会, 豊橋.
- 藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之. 1999. シギ・チドリ全国カウント報告書 1998 年秋. 176 pp. 日本湿地ネットワーク, シギ・チドリ委員会, 豊橋.
- ネチャエフ V. A. 1991 (藤巻裕蔵訳 1995). 極東の鳥類 12 サハリンの鳥類 1. 175 pp. 極東鳥類研究会, 帯広.